

温かい社会のために

岐阜市立島中学校 3年
宮崎 桃碧(みやざき もあ)

「おはよう」、「こんにちは」、「ありがとう」。誰かとこんなあいさつを交わすと、私は自然と心が温かくなります。また、友達や大切な人に手紙を書いたりもらったりすることも私は大好きです。しかし、これらのあいさつやお礼の言葉、手紙をやり取りする機会が今、減ってきているように感じます。

私たちの社会では近年、デジタル化に伴って身近に手に触れられる紙の媒体から、様々なものがデジタルへと変わってきています。飲食店や美容院においても、デジタル機器を目にすることが多くなりました。待ち時間に読む雑誌や漫画などはもちろん、来店予約から注文、会計といった多くのことが、全てタブレットで行われるなど、働く人やお客さんどちらにとっても便利で手軽な手段として使用されています。

先日家族で行った外食では案内をしてくれるお店の人はおらず、自分で発券ボタンを押して席を探して座りました。注文はもちろんタブレットで完了し、食事はレーンに乗って運ばれてきました。最後の会計で初めて店員さんと会話をしましたが、「クレジット払いですか、カード払いですか、それとも電子マネーでしょうか。」という、デジタル化ならではの淡々としたやり取りで終わり、なんだか寂しさを感じました。

私が行っている美容院でも、似たような気持ちになりました。施術時間になると、タブレットが渡され、好きな雑誌や動画を見ることができます。しかし、私はそうではなく、美容師さんといろいろな会話をして、楽しい時間や温かみのある時間を過ごしたいと思っています。人それぞれの意見を聞いたり、考えを知っていったりしていくことは、かけがえのない貴重な時間だと思うからです。

また、今は手紙を書くよりも、インターネット上でメッセージをやり取りする方が一般的になってきています。ですが、直筆で書かれた手紙には、書き手の思いがより込められているように感じます。一文字一文字手書きで書くのは労力がいるますが、直筆の文字には書き手一人ひとりの個性が表れます。そして、時間をかけて、何を書けばいいかを考え、どう書くのか試行錯誤する時間は、相手のことを思い、しっかりと考える時間になります。そのような時間は、自分の気持ちと向き合うことにもなり、大切な時間になると思います。

デジタル化された社会は急速に発展し、様々な場面で利便性の追求が加速しています。それと同時に、あいさつやお礼の言葉を直接伝えたり、手紙を書いたりするといった従来のコミュニケーションのあり方が変化してきているように感じます。従来のコミュニケーションのあり方の変化に伴い、私は危機感を抱いています。世界における技術革新の面から考えると、効率を重視し、より便利にという観点も重要かもしれませんが、人とのつながりの中で思いや情報が行き来する社会は人間味があって素晴らしいと思います。人との関わりの中で従来のものの良さにも目を向けながら、生活をするのが大切なのではないのでしょうか。

目と目を合わせて会話をする。笑顔で反応する。心と心を通わせてつながっていく。そんな人と人とのコミュニケーションこそが、私たちの未来には必要であると感じています。そのような未来にしていくために、私はまず家族や身近な人、ご近所さん、クラスメイトなどに心を込めたあいさつをするということを大切にしていきたいです。目を見てあいさつをすることで、お互いが気持ちよく感じられると思います。相手を幸せな気持ちにさせるだけでなく、そのようなコミュニケーションのやり取りが心を豊かにし、人間を成長させる1つの手段になると思います。

私たちの社会がいつまでも温かく、豊かであるように、共に、心を込めた対面コミュニケーションを図っていきましょう。「おはよう。」、「こんにちは。」、「ありがとう。」。

心が温かくなる瞬間を絶やさないために。